

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370526

研究課題名(和文)日本語史基礎資料としての世阿弥真蹟文書の総合語彙索引の作成

研究課題名(英文)General Index of the genuine Zeami's handwriting as the groundwork data of Japanese language

研究代表者

金子 彰(Kaneko, Akira)

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：20126402

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本語の史的研究上、中世の世阿弥文書は貴重である。その真蹟が多量に残っている点や、独自の表記法等が見られるからである。世阿弥の真蹟文書を中心に他者が写した真蹟外文書を、原本調査を行い本文を精確に翻刻し、それに基づいて語彙総索引を作成して研究誌に公刊した。世阿弥真蹟文書は、能楽論書『風姿花伝』巻第六(観世文庫蔵)、能本『柏崎』『盛久』『江口』『雲林院』『多度津左衛門』(以上宝山寺蔵)、『難波梅』『松浦之能』『布留』『阿古屋松』(以上観世文庫蔵)、『書状』(宝山寺蔵)の各作品である。世阿弥真蹟外は、能楽論書『三道』(吉田文庫蔵)、能本『弱法師』『知章』(宝山寺蔵)、古謡集『金島書』である。

研究成果の概要(英文)：In the historical research of Japanese language, Zeami's documents in the middle ages contains precious materials such as a large number of genuin handwriting and original styles of writing. I did preccise and complete research and reprinting of his genuin handwriting and original copies. Through these research and reprint, I made the general index of Zeami's documents, and published in the research journals.  
The genuin Zeami's handwriting documennts are : 風姿花伝, 柏崎, 盛久, 江口, 雲林院, 多度津座衛門, 難波梅, 松浦之能, 布留, 阿古屋松, 書状, The original copy of Zeami's documents are : 三道, 弱法師, 知章, 金島書.

研究分野：日本語史・中世語

 キーワード：世阿弥文書 世阿弥能楽論書 世阿弥能本 世阿弥書状 世阿弥古謡集 世阿弥文書語彙総索引 中世  
芸能 中世語

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 能楽宗家の観世家によって代々傳承されてきた世阿弥真蹟文書がある。この世阿弥の真蹟が持つ言語の実態は日本語史研究の第一等資料である。世阿弥の研究は文学・芸能分野で盛んであるが、本研究が目指す語学的な研究蓄積は学界でも少ない。本研究で作成しようとする「世阿弥真蹟文書総合語彙索引」の先行研究には、中村格編『世阿弥伝書用語索引』(笠間書院 1985)がある。そこでは『世阿弥・禅竹』(日本思想大系 24、岩波書店)等を用い、校訂された活字本等を底本として用語を採録掲載している。この用語索引では本文の表記や読み方は上記活字本を底本にして作成されており、語彙索引の見出し語も「-」で示され、世阿弥によって創造された独特な表記法が割愛されている。本研究では世阿弥の表記法をも記述して、真蹟文書が見せる濁音符、アクセント記号、分かち書きや、本文の補入訂正等をも把握できる語彙総索引を作成する。上記用語索引は、『風姿花伝』1本、『金春大夫宛書状』の2本を掲載するが、残り9本の世阿弥真蹟能本は未掲載である。本研究では、世阿弥真蹟文書の全てを底本として、本文を翻字し、それに基づく語彙総索引を作成する。従来の語彙把握のみに主眼を置く索引類以上に、世阿弥の表記法をも検索できる総索引を提示する。これは、日本語史研究や日本芸能演劇史研究にとって、その研究の可能性が拡大し、当該分野研究に広く寄与するものである。

(2) 本研究期間の開始前に研究準備として既に以下の世阿弥真蹟文書の一部の語彙総索引を作成し公刊していた。自筆能楽論書『花伝第六花修云』(観世文庫蔵)。自筆能本『難波梅』『松浦之能』(以上観世文庫蔵)『柏崎』『盛久』『江口』『雲林院』(以上奈良県生駒宝山寺蔵)。これらの総索引作成を通して本研究の問題点を整理して、研究期間にどのような語彙総索引を作成すべきかを把握して研究に入った。本研究では世阿弥の本文が見せる補入や訂正箇所、文章の改変等の様相はミセケチ、抹消等と注記しながら丁寧に記述して翻字本文を作成した。世阿弥文書の補助符号は中世の言語資料としては独創的で異彩を放つ。濁音符、アクセント記号、分かち書き等を原本に忠実に復元して翻字して索引にも反映させた。世阿弥文書は何度も本文が修訂され、その箇所の翻字は複雑であったが、その度重なる修訂こそが世阿弥の表現活動の特徴であるので、それらを割愛しないで翻字に努めた。原本調査中、観世文庫所蔵本の世阿弥文書には朱の書き入れがあり、奈良県生駒の宝山寺所蔵本には朱の書き入れが見られないことも判明した。そうした朱の書き入れも「朱」と示して翻字し、総索引にも反映した。細部まで世阿弥文書を忠実に翻字し、それに基づく語彙総索引作成に反映させことを目標として研究期間に入った。

## 2. 研究の目的

日本語史のみならず、日本芸能演劇史研究の基礎資料として、世阿弥の能楽文書は、中世の言語表記としては独特で貴重な文献である。世阿弥の創造した独特な表記法や禅語などを基盤とした語彙類を、既に公刊されている活字本で研究するのみでは世阿弥の言語事実がすり抜けることも多い。本研究では語彙史はじめ表記史研究にも使用し得る精確を期した翻字本文と、それに基づいた世阿弥真蹟文書語彙総索引を作成して学界に提供することを目標として研究を進展させた。室町時代に世阿弥によって書写された能楽文書は、日本語の古代語が崩壊し近代語が形成される過渡期中世語の解明には無くてはならない貴重な文献群である。世阿弥文書を彼の能楽論書と、彼が作成した能本と、彼の自筆書状とに分けて作業に入る。芸能者であり実際舞台にも立つ彼が修得した語彙の総体は何であるか。彼の文章表現の特徴は何であるか。彼が創造したであろう言語記号(文節位置の句読点、濁音符その他)はどうして創案されたものなのか。彼が属した室町文化を代表する將軍足利義光や二条義元等から受けた言語受容は何であったのか。それらを解明するためにも、その基礎資料として必須の語彙総索引を作成することが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

(1) 現存する世阿弥真蹟文書全14本の翻字本文を新しく作成し、それを底本とした語彙総索引を作成する。既に研究期間前に作成したのもも修訂版を作成してこの研究を行う。作成する世阿弥真蹟文書は次である。能楽論書3本『花伝第六花修云』『花伝第七別紙口伝』『花伝内抜書』(以上観世文庫蔵)。能本9本『難波梅』『松浦之能』『阿古屋松』『布留』(以上観世文庫蔵)『柏崎』『盛久』『多度津左衛門』『江口』『雲林院』(以上奈良県生駒宝山寺蔵)。自筆書状2本『金春大夫宛五月十四日付』『金春大夫宛六月八日付』(以上宝山寺蔵)。更に純粋ではないが世阿弥自筆ではない次の4本も翻字して語彙総索引を作成する。世阿弥自筆の上に後世人の書き入れ能本2本『弱法師』『知章』(宝山寺蔵)。世阿弥最晩年の小謡集写本1本『金鳥書』(新潟市吉田文庫蔵)。世阿弥本の転写能楽論書1本『三道』(吉田文庫蔵)である。

(2) 本研究では可能な限り以下の所蔵先に赴いて原本調査を行うことを原則とする。奈良県生駒宝山寺(年一回八月に所蔵原本が公開されるのでこの期に閲覧調査する)。吉田文庫(吉田東伍博士収蔵を所蔵)観世文庫は閲覧の許可を申請して調査する。閲覧が叶わない場合は次の複製本(カラー版)に依って翻字本文を作成する。『世阿弥自筆能本集

影印篇』(月曜会編、岩波書店、1997)を作成して完成した総索引から研究誌に投稿して公刊する。真蹟本と転写本の二部構成で『世阿弥真蹟文書の総合語彙索引』を学界に提供することが最終目標である。

#### 4. 研究成果

本研究の準備期間を含め、研究期間中に研究誌に公刊した語彙総索引は以下の16本である。

(1) 自筆能楽論書1本 『花伝第六花修云』(以上観世文庫蔵)。自筆能本9本 『難波梅』 『松浦之能』 『阿古屋松』 『布留』(以上観世文庫蔵)。『柏崎』 『盛久』 『多度津左衛門』 『江口』 『雲林院』(以上奈良県宝山寺蔵)。自筆書状2本 『金春大夫宛五月十四日付』 『金春大夫宛六月八日付』(以上宝山寺蔵)。世阿弥自筆の上に後世人の書き入れ能本2本 『弱法師』 『知章』(宝山寺蔵)。世阿弥最晩年の小謡集写本1本 『金島書』(新潟市吉田文庫蔵。世阿弥本の転写能楽論書1本 『三道』(吉田文庫蔵)。

(2) 自筆能楽論書2本 『花伝第七別紙口伝』 『花伝内抜書』(以上観世文庫蔵)は原本調査が叶わず、観世ア・カイク等画像等を検索したが、精確な翻字本文が確定できなかった。語彙総索引の原稿は作成したが完成に至らず、未公刊である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)研究期間中に公刊したものは以下である。

[雑誌論文](計13件)

金子彰、中世仏家の言語の伝承 - 蓮如写『歎異抄』と自筆『御文』を通して -、東京女子大学日本文学、査読無、113号、2017、27 - 50

金子彰、川野絵梨、世阿弥『三道』語彙総索引稿、ことばとくらし、査読無、28号、2016、29 - 73、

金子彰、鎌倉仏教者の注釈活動 - 親鸞と覚如の左注を視点として -、東京女子大学紀要論集、査読無、67巻1号、2016、57 - 89

金子彰、山本康世、世阿弥能本『知章』語彙総索引稿、東京女子大学日本文学、査読無、112号、2016、105 - 138

金子彰、親鸞の表記法 『唯信抄』と『明義進行集』の比較を通して、東京女子大学紀要論集、査読無、66巻2号、2016、21 - 48

金子彰、山本康世、世阿弥能本『弱法師』語彙総索引稿、ことばとくらし、査読無、27号、2015、27 - 53

金子彰、東京女子大学大学院有志、世阿弥自筆能本『阿古屋松』語彙総索引稿、東京女子大学日本文学、査読無、111号、2015、91 - 121

金子彰、来迎院如来蔵『讚阿弥陀仏偈』の本文と訓点 良忍手沢本、教行信証、円空本模写本、南條本の比較を通して、真宗総合研究所研究紀要、査読有、32号、2015、1 - 31

金子彰、親鸞の転写本と自著本の著述の方法 『唯信抄』と『唯信抄文意』の比較を通して、日本語史の研究と資料、査読無、2015年、81 - 100

金子彰、中古の辞書 類聚名義抄、悠久、査読無、139号、2015、57 - 67

金子彰、富田千晴、石黒のぞみ、世阿弥自筆能本『布留』語彙総索引稿、ことばとくらし、査読無、26号、2014、24 - 50

金子彰、富田千晴、世阿弥自筆能本『多度津左衛門』語彙総索引稿、東京女子大学日本文学、査読無、110号、2014、137 - 169

金子彰、後藤貴子、金子紀子、渡邊舞、世阿弥『金島書』語彙総索引稿、ことばとくらし、査読無、25号、2013、14 - 64

[学会発表](計12件)

金子彰、親鸞の著述の方法とその言語伝承と、第83回新潟県方言研究会、2017年3月26日、アトリウム長岡(新潟県・長岡市)

金子彰、鎌倉仏家の注釈書作成活動 親鸞遺文を通して、2016年度東京女子大学日本語史研究会、2016年10月1日、東京女子大学(東京都・杉並区)

金子彰、中世越後の女性文書の漢語受容とその表記について 中世文書と比較して、第82回新潟県方言研究会、2016年8月28日、アトリウム長岡(新潟県・長岡市)

金子彰、親鸞の著述活動と書写活動と 越後時代の言語活動の意義、第81回新潟県方言研究会、2016年3月27日、アトリウム長岡(新潟県・長岡市)

金子彰、中世越後地方の言語について 越後関連文書を通して、平成27年度新潟県ことばの会、2015年11月21日、新潟大学(新潟県・新潟市)

金子彰、鎌倉時代の女性文書の言語、2015年度東京女子大学日本語史研究会、2015年10月3日、東京女子大学(東京都・杉並区)

金子彰、鎌倉時代の越後の女性文書の言語記述、第 80 回新潟県方言研究会、2015 年 8 月 30 日、アトリウム長岡（新潟県・長岡市）

(2)研究分担者 ( )  
研究者番号：

金子彰、歎異抄古写本の本文と用語、第 79 回新潟県方言研究会、2015 年 3 月 29 日、アトリウム長岡（新潟県・長岡市）

(3)連携研究者 ( )  
研究者番号：

金子彰、親鸞の自著本と転写本の著述の方法、2014 年度東京女子大学日本語史研究会、2014 年 10 月 4 日、東京女子大学（東京都・杉並区）

(4)研究協力者 ( )

金子彰、親鸞の著述の方法 自著と転写と第 78 回新潟県方言研究会、2014 年 8 月 31 日、アトリウム長岡（新潟県・長岡市）

金子彰、中世仮名文の表記 文節位置句読点の発掘に向けて、2013 年 11 月 11 日、2013 年度東京女子大学日本語史研究会（東京都・杉並区）

金子彰、越後人の言語記述 中世字書作成を通して、2013 年 8 月 25 日、第 76 回新潟県方言研究会、アトリウム長岡（新潟県・長岡市）

〔図書〕(計 0 件)

[産業財産権

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

金子彰 (KANOKO, Akira)  
東京女子大学・現代教養学部・教授  
研究者番号：20126402